＜特定非営利活動法人　千葉県中途失聴者・難聴者協会＞　【事業提案型・３年目】

# 文字を生かしてコミュニケーション「筆談を学ぼう」講座

【支援金確定額：51,289 円　支援率：50%】　　記入日：平成 27 年 3 月 11 日

**■どのような活動をしている団体ですか？**

人生途上で、失聴した人や難聴になった人たちの福祉を目指し活動している団体です。特に音声会話が成り立たなくなった喪失感から、心身共に孤立しがちな中途失聴者や難聴者にコミュニケーション方法の獲得を促す月例会や、社会の理解を求める啓蒙活動を行っています。また、コミュニケーションの支援用具である筆記ボードの作製や、聞こえのシンボルマークの普及にも力を入れています。

更に、要約筆記者の全国組織「全国要約筆記問題研究会　千葉支部」と共に、文字での情報提供などの取り組みを協働で展開し、聞こえの支援活動も行っています。

【講座の様子】

**■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？**

３年目を迎えた当事業では、２年間の経験を生かし新たに地域への理解を求めた「筆談を学ぼう」を２回の連続講座で実施しました。高齢者の集まるところに文字情報の配慮が必要であることに加え、身近に暮らす人たちが聞こえにくいことを理解し、日常的に書くことに慣れる環境づくりも大事なことと考えました。「筆談」は誰でもできると思われがちですが、コミュニケーションの手段として「書く」には知識と技術を要します。対象を介護にかかわる人、病院で患者に接する人、傾聴など生活場面で聞こえにくい人に出会うことの多い福祉分野に携わる人を中心に案内とチラシを作成し呼びかけました。

【講師の話に集中】

**■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？**

まず呼びかけに対する反響の多さに驚きました。講座の内容から定員を３０人としましたが、その倍以上の申込があり、受講者決定に戸惑い、抽選という形で決めさせてもらいました。ケアマネージャー・傾聴ボランティア・大学生・福祉施設の職員に加え、家族に難聴の人がいるなどその対応に苦慮している方々からの申し込み動機でした。終了時にアンケート調査をしました。「聞こえにくい・聞こえない」人たちの気持ちがわかった。「筆談」の実技を通して書くことの大事さに気づいたとの感想に触れ、企画した講座内容の需要の高さを実感しました。

【筆談の実習】

**■今後の活動の抱負について**

今回、定員を超える申込があり、選に漏れた方々や受講した方々から「次回開講」の希望を多くいただきました。高齢社会と共に、難聴になる人が増えていることはニュースでも報道されています。しかし、聞こえない・聞こえにくいことがどういう状況であり、どんな心理状態に置かれているのか、どのような対応が心を傷つけずコミュニケーションのバリアフリーに繋がるのか。こうしたことを地域で取り組み理解を深めることが、地域生活を風通しの良い状態にするのではないかと思います。「筆談を学ぼう」を定期的に実施することで、コミュニケーションから孤立する人たちの解消に効果もあり継続の意義もあると考えます。

**■問い合わせ先**：理事　金田　敏子（かなた　としこ）
TEL/FAX:047-432-8039　　E-mail:ccnk@kzd.biglobe.ne.jp